



Special Talk

伊達なふるさと大使就任記念対談

伊達市の魅力、そして未来

11月、高島英也さん、長沢裕さん、小林アリスさんの3人に「伊達なふるさと大使」を委嘱しました。市長と大使の皆さんで対談を行い、伊達の魅力や未来像を大いに語り合いました。

対談を動画でみる



高島 大使になる前からお得意先に桃やあんぽ柿を贈るなど特産品の紹介をしてきました。伊達市は広くていいものがたくさんあるので、もっと市内を歩きたいと思います。

長沢 一期目の3年間はいろいろな経験をしました。あんぽ柿のトップセールスでは、市場の目利きの中であんぽ柿が注目されていて、あんぽ柿に対するプライドが強まりましたし、あんぽ柿がある風景を残したい気持ちも年々強まっています。

小林 今回初めて就任しました。私は地元

元に育ててもらった意識が強く、運動会でおじいちゃんやおばあちゃんのかけっこがあったり、近所の家であんぽ柿を作る授業がありました。地域に近いことが当たり前だと思っ

キーワードは「人」

近所の人

「人」なんて怒られることも少ないかもしれないけど、そういう経験は自分の知恵になって、マイノリティを支えてくれるんですよ。

市長 伊達の良さは中に行くと分

な、住んでみようかな、そういう順番で発信したいと思います。そのためには住む皆さんが地元を素晴らしいと思うことが鍵です。地元の皆さんに知ってもらって、皆さんが発信する形を作れたらと思いますね。

長沢 『心の故郷づくり』というキーワードを大事にしています。あの人にもう一度会いたい、あの景色をもう一度見たい、あの瞬間楽しかったな…って思える土地が心のふるさとだと思えます。それを見出してもらうには、住んでいる自分たちが魅力を見出していることが必要。多分みんな心に持っていますよね。

小林 就職や進学で伊達市を離れる人もいますが、いつか必ず戻ってきたいと思えるのが伊達市だと思います。

幸せがじゅずつなぎ

もらえたらと思えます。

「って。(一同笑。)これを毎朝話していると本当に元気になるんです。行動が集まると大きなうねりになるんじゃないですかね。「自分がやるんだ」って一人一人の行動で動かしていく。そして、伊達市だけではダメで、近隣市町村と連携していくことが必要だと思います。

皆さんの話を聞いて世代のつながりが大事だと思いました。若い人たちが定住すると、子どもも高齢者もあらゆる世代が元気になってつながる。それが伊達市だよって伝えていく。「#幸せがじゅずつなぎになるまち 伊達」のメッセージだったりなまちにしていききたいと思えます。



伊達なふるさと大使

当市に縁があり、市内外に向けて発信力のある方に「伊達なふるさと大使」を委嘱しています。高島英也さん、長沢裕さん、小林アリスさんとサンドウィッチマンさんの5人にご活躍いただいています。

プロフィール (敬称略)

高島 英也 (たかしま ひでや)
大使2期目。保原町出身。1982年にサッポロビール(株)に入社。2017年1月からサッポロビール株式会社代表取締役社長に就任。2021年3月からサッポロホールディングス(株)の顧問に就く。

長沢 裕 (ながさわ ゆう)
大使2期目。保原町出身。タレントとしてテレビやラジオなどで活躍し、日本テレビ系朝の情報番組「ZIP!」6代目お天気キャスターに抜擢。現在は、KFB 福島放送「シェア」、BS-TBS「釣り百景」に出演中。

小林 アリス (こばやし ありす)
大使初就任。霊山町出身。女優・モデルとしてテレビやCMなどで活躍。2017年ミス・ユニバース・ジャパン福島大会グランプリ、日本大会特別賞を受賞。現在は KFB 福島放送「シェア」に出演中。